

「神奈川らしいコミュニティ・スクール」の導入

— 高等学校における地域および小中学校との連携 —

堀 俊

はじめに

高等学校と地域及び近隣の小中学校との連携は、高校生の学びの機会として、また学校としてもとても有意義である。平成28年度から勤務した神奈川県立相模田名高等学校において、さまざまな地域との連携や近隣の小中学校との連携に携わってきた。折しも学校評議員制度に代わって「神奈川らしいコミュニティ・スクール」が導入される時期が重なったことから、神奈川県教育施策「かながわ教育ビジョン」「県立高校改革」「神奈川らしいコミュニティ・スクール」等の内容を改めて確認し、平成28年度から平成30年度までの3年間の相模田名高校における地域との連携や近隣の小中学校との連携の取組みと現場におけるコミュニティ・スクールの導入の経緯をまとめ成果を検証するとともに、コロナ禍にあつて地域と連携した活動がやりにくい状況が続いていることから、実践報告としてまとめることにした。

1 かながわ教育ビジョン「心ふれあう しなやかな 人づくり」

神奈川県教育委員会では、明日のかながわを担う人づくりを進めるために、県民から意見を募集したり県民の教育論議や提言などを踏まえて、平成19年8月に、神奈川県教育の総合的な指針となる「かながわ教育ビジョン」を策定した。そして、平成27年10月と令和元年10月に一部改訂が行われた。これは、社会状況の変化や国の「第2期教育振興基本計画」及び「第3期教育振興基本計画」との整合性を踏まえ、平成27年には第4章の「展開の方向性」と第5章「重点的な取組み」を、令和元年には第5章の「重点的な取組み」と第6章の「教育ビジョンの推進」を改訂した。

基本理念として「未来を拓く・創る・生きる 人間力あふれる かながわの人づくり」を掲げ、この理念を実現するために、子どもから大人まで、すべての人が身に付けていきたい「人間力」の内容を、教育目標「めざすべき人間力像」に整理し、自己肯定感を基盤とした「思いやる力」「たくましく生きる力」「社会とかかわる力」の3つを教育目標として掲げている。

この3つの教育目標では、人が家庭の中に生まれ、多くの人に見守られながら成長していく過程で、自己肯定感を基盤とし、人を尊重し、多様性を認める思いやる力を身に付けるとともに、社会とのかかわりの中で豊かな経験を積み、学び続けることで人間的な成長

を遂げ、自分らしく自立してたくましく生き抜くことのできる力と、学んだことを生かして社会に貢献する力の育成をめざすとしている。

第4章の「展開の方向」では5つの「基本方針」が示され、その方針に関連した「取組みの方向」が示されている。5つの基本方針とは、1. かながわの教育力を生かした生涯にわたる自分づくりの取組を進めます。2. 新たな教育コミュニティを創造し、活力ある地域づくりを進めます。3. 少子化などに対応した家庭での子育て・教育を支える社会づくりを進めます。4. 子ども一人ひとりの個性と能力を大切に、共に成長する場としての学校づくりを進めます。5. 生涯にわたる自分づくりを支援する地域・家庭・学校をつなぐ教育環境づくりを進めます。というものである。この基本方針に関連した取組みとしてあげられているコミュニティ・スクールに関係する内容としては、基本方針1の3番目で、未来社会の創造に参画・協働できる自分づくりのために地域貢献活動やボランティア活動の充実が示された。基本方針2の2番目で、参画・協働による活力ある新たな教育コミュニティの創出を進めるためにコミュニティ・スクールの普及と充実があげられている。さらに、基本方針3の2番目で、地域との連携による子どもの社会的な経験の機会の充実を図り、体験による学びを通じて、地域と連携を深めながら、自己肯定感を育む取組みなどが、取組みの方向として示された。

さらに、第5章の「重点的な取組み」のⅢ「学びを通じた地域の教育力の向上」において、保護者や地域住民等が参画・協働しやすい環境を整え、あわせて、学校運営の活性化と教育力の向上を図るために、地域との協働による学校づくりをめざした「かながわらしいコミュニティ・スクール」の導入・推進に取り組むとしている。

2 県立高校改革実施計画

神奈川県の県立高校改革は、平成28年度を初年度として、令和9年度を目途とする12年間とし、実施計画（全体）と計画期間をⅠ期・Ⅱ期・Ⅲ期に分割した期別の計画によって構成されている。

県教育委員会は、平成27年1月に「県立高校改革基本計画」を策定し、改革の基本的考え方を整理した。改革のコンセプトは、「生徒の学びと成長にとって何が必要かという視点を最優先にする（スチューデント・ファースト）」という基本的な考え方に立って、すべての県立高校で改革に取り組むこととした。

改革のめざす生徒像として「県立高校に学ぶ生徒を、夢や希望、そして志をもち、学びを通じて自らの人生を切り拓き、生涯をたくましく生きる力や、人を思いやり、社会とかわり貢献する力を身に付けた人を育てる」とし、「めざす生徒像」の実現に向けて、生徒一人ひとりを大切に育む豊かな人間性と高い専門性を身に付けた教職員の育成・配置や、生徒にとって安全・安心で快適な教育環境の整備、さらには地域と連携した学校づくりなどを通じて、県民と地域に信頼され、活力ある魅力あふれた県立高校をめざす」としている。

「基本計画」の改革の柱は3本で、「生徒の多様性を尊重し、個性や能力を伸ばす、質の高い教育の充実」「魅力ある学校づくりを一層推進する学校経営力の向上」「少子化社会の中で生徒に望ましい教育を推進する県立高校の再編・統合等への取組み」とし、3本の柱

の中に合わせて7つの重点目標がおかれている。「基本計画」の重点目標5が「地域の新たなコミュニティの核となる学校づくりを進める」というもので、その中で「地域との連携・協議による学校づくりを一層推進し、学校が地域コミュニティの核となることや、神奈川らしいコミュニティ・スクールの導入に取り組みます」とした、コミュニティ・スクールに関わる目標が掲げられている。

「基本計画」を踏まえて平成28年1月に策定された「県立高校改革実施計画」（全体）では、同じく重点目標5として「地域協働による学校運営の推進」が掲げられた。そして「取組みとその概要」として、「実施計画（I期）において「すべての県立高校において学校運営協議会制度を導入し、コミュニティ・スクールを指定することを通じて、地域住民や保護者等との協働による、より良い教育の実現をめざして、地域に開かれ、地域とともにある学校づくりに取り組みます。『神奈川らしいコミュニティ・スクール』は、県教育委員会が定める「神奈川県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」に基づき、学校運営協議会（当該校の校長を含む10名以内の委員による協議会）を組織し、取組みを進めます。また、コミュニティ・スクールの指定により、これまで取り組んできた学校評議員制度＊については見直しを図ります」としている。

さらに、「神奈川らしいコミュニティ・スクール」の導入について、これまで各学校において地域との協働による学校運営や開かれた学校づくりに取り組んできた実績をいかしながら、コミュニティ・スクールの指定を段階的に行い、学校運営協議会に基づく地域協働による学校運営を推進するとしている。

「実施計画」（全体）で示されている「神奈川らしさ」（イメージ）については、A. かながわ教育ビジョンの具体化、B. 地方創生の観点からの学校運営協議会、C. 高校生が主体的に地域へ、D. 学校運営協議会の実質的活動の保障という4つが示されている。

＊学校評議員制度～地域や社会に開かれた学校づくり、地域の意見を反映した学校づくりの推進

平成12年度に県立高校8校、養護学校等2校をモデル校として取組み開始

平成13年度に県立高校40校、養護学校等21校を実施校として拡大

平成14年度から全県立学校で実施

3 神奈川らしいコミュニティ・スクール（県立学校）

文部科学省のホームページによると、コミュニティ・スクール（学校運営協議会）については、平成27年12月に取りまとめられた中央教育審議会答申「新しい時代の教育と地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」を踏まえて、学校運営協議会の設置の努力義務化やその役割の充実などを内容とする「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正が行われ、平成29年4月より施行されたとある。

これを受けて神奈川県では、平成28年度から始まった県立高校改革の一つとして「神奈川らしいコミュニティ・スクールの導入」が行われることになった。コミュニティ・スクールの説明としては、文部科学省の説明とほぼ同様で、「コミュニティ・スクール（学

校運営協議会制度）は、「保護者や地域の方などが学校運営に参画できる仕組みです。生徒たちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・困難化しており、教育改革の方向性や、地方創生等の動向において、学校と地域の連携・協働の重要性が示されています。こうした課題の解決と神奈川の未来を担う生徒たちの成長に向けて、学校と地域が協働で、生徒たちを支える学校づくりを進めることができる、学校運営協議会制度が求められています。」として、「神奈川らしいコミュニティ・スクール」を導入することになった。

運営のポイントとしては、①各校の育てたい生徒像（学校目標、教育方針など）を地域と共有し、目標実現に向けて共に協働する。②コミュニティ・スクールの仕組みを生かした取組みにより、生徒の学びの充実につなげる。③社会に開かれた教育活動により、生徒の資質・能力を育むとなっている。

組織としては、①学校運営協議会を設置して、生徒の学びの充実のために校長と協議会委員が協議する。②協議の結果を展開する実働組織として必置の学校評価部会をおく。③各学校の実態に応じて、例えばキャリア部会とか地域協働部会といった部会を設置し、地域住民や保護者、学校支援ボランティア等の協力を得て、学校及び地域等の教育力を生かした「生涯にわたる自分づくりの推進」に資するとなっている。

協議会の委員は保護者や地域の方々、学識経験者などから校長が推薦し、県教育委員会が任命する。

学校運営協議会での協議は、校長が策定した①学校運営の基本方針、②学校教育計画、③教育課程編成、④組織編制、⑤学校予算の編成及び執行、⑥施設管理・設備等の整備などについて熟議し、協議会委員は、①学校運営の基本方針の承認、②学校運営に関する意見、③教職員の任用に関する意見等を述べることになっている。

協議会の開催は年に3回程度としている。5月か6月に1回目を開催し、会長・副会長の選出、学校の現状と課題の整理、目標の確認、当該年度の基本方針の承認、部会の設置について熟議する。2回目は、2学期を中心に教育活動の視察や取組みの進捗状況を見てもらう協議会を開催し、3月には当該年度の現状と課題の整理、学校評価と改善方策の検討、次年度に向けての熟議を行うというのが一般的な開催日程となる。必置の学校評価部会は学校運営協議会とセットで開催する場合もある。学校設置部会は状況を見て開催される。協議会は公開を原則としているので、開催については事前にホームページ等で公表し、外部の方の傍聴も可能としている。議事録についても公開することになっている。また、学校運営協議会において学校運営について意見が出され、その意見が県教育委員会と相談するような内容であった場合には、県教育委員会として対応するフローも示された。実際にそうした対応をしたことはなかったが、県教育委員会では予算措置も含めた対応ができる準備がなされていた。

4 県立高校改革実施計画（Ⅰ期）成果と課題

県立高校改革（第Ⅰ期）を終えて、県教育委員会は令和2年6月に「県立高校改革実施計画（Ⅰ期）成果と課題」を出しており、次のように報告されている。

＜施策の展開＞ 神奈川らしいコミュニティ・スクールの導入（学校運営協議会の指定）

平成28年度＝5校指定 平成29年度＝25校指定 平成30年度＝75校指定

令和元年度＝全校指定

＜主な取組み＞

- ・全校に学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールを導入した。
- ・県教育委員会において、コミュニティ・スクールのホームページを作成するとともに、保護者・地域等へ向けたリーフレットを作成するなど、積極的に情報発信を行った。
- ・全校導入後の取組事例の共有と取組みの深化・推進を目的とした研修会を開催した。

＜取組みの成果＞

- ・コミュニティ・スクールの導入により、地域との連携が進み、教育活動の充実に資することができた。
- ・学校運営協議会を設置したことで、地域と協働した学校づくりに向けた議論が活性化するとともに、学校経営に対して率直かつ客観的な助言を受けることができた、
- ・学校運営協議会委員の助言や紹介により、地域人材の活用に関して有意義な支援を受けることができた。

＜今後の課題＞

- ・学校の実情に応じて、コミュニティ・スクールの取組みを定着させ、事例の共有などを図り、全県立学校において学校運営に資する組織として、より実効性のあるものに成長させる必要がある。
- ・コミュニティ・スクールの活性化に向け、学校行事に地域の人に関わってもらうなど、地域と連携した取組みを充実させる必要がある。
- ・研修会等を通じて、各校がコミュニティ・スクールの意義や目的の理解を深め、学校評価部会や学校独自に設置している各種部会の活動の活性化を図る必要がある。

5 相模田名高校の地域及び近隣小中学校との連携と コミュニティ・スクールの導入

県立相模田名高校では、平成29年度から県立高校改革の一環としてコミュニティ・スクール（学校運営協議会）の指定を受けて取組みを進めることになった。平成28年度から平成30年度までのコミュニティ・スクールの導入の経過と地域や近隣の小中学校と連携した主な取組みは次のとおりである。

（1）学校運営協議会委員

学校運営協議会の委員は、地域との連携の中心になることから、それまでの学校評議員であった相模原市立田名中学校校長、田名公民館館長、田名地区青少年健全育成協議会の会長、学校に隣接する障がい者支援施設の施設長、PTA会長に引き続きお願いすることにした。さらに、学校運営協議会では学識経験者等に委員をお願いすることになっていた。進路の関係でつながりのある神奈川工科大学の高大連携担当の先生をお願いすることにした。また、必置の学校評価部会についても協議会と兼務でお願いすることにした。手続きとしては、学校から県教育委員会に推薦ということで名簿を提出し、県教育委員会が任命するという流れであった。

年度初めの会議は、5月から6月に日程設定を行って実施し、顔合わせと今年度の学校運営の方針や学校目標の承認等を行っていただいた。体育祭、文化祭、授業改善のための

研究授業などの行事ごとにご案内を行い、都合がつくときには参観していただいた。中学校長や大学の先生には、研究授業などでは参観だけでなく研究協議にも参加していただき貴重な助言をいただくことができた。例年2月に生徒の学習成果発表会を行っていたので、それにあわせて第2回の会議を設定し、生徒の活動を参観していただく機会とした。第3回は3月に実施し、年度の総括をしていただく会議をお願いしていた。委員の方々にあっては、お忙しい中を学校に足を運んでいただきさまざまな助言をいただくことができた。本当にありがたかった。

(2) 小中高の連携

相模原市では、児童生徒の豊かな人間性や社会性を育むとともに、今日的な教育課題を解決することを目的として小・中連携教育を推進しており、挨拶運動や情報交換会などの取組みを通して、小学校と中学校の連携した魅力ある学校づくりを推進している。相模田名高校では、この取組みに参加させていただき、近隣の相模原市立田名中学校と田名中学校区の田名小学校、田名北小学校、新宿小学校、夢の丘小学校との小中高の連携を推進した。

- あいさつ運動～各小学校、中学校の出身の本校の1年生の生徒が、小中学生の登校時間に各小中学校の校門で行われるおいさつ運動に参加した。あいさつ運動は、小学校では児童会の児童、中学校では生徒会の生徒と各学校のPTAが中心となって行われており、そこに高校生が参加させていただくという形であった。参加した本校の生徒は、小学校や中学校の在学中に高校生が小学校や中学校のあいさつ運動に参加していることを見ており、違和感もなく参加していた。参加した生徒が、お世話になった中学校の先生と談笑する姿も見られた。
- 夏休みの補習等への参加～中学校の補習にアシスタントとして参加したり、学童クラブに生徒が行って、小学生と宿題を一緒にやったり遊んだりした。
- 部活動の交流～市内の中学校を主な対象として、夏休み期間中に「田名リンピック」と銘打って各部活動ごとに合同練習や大会形式の交流を行った。
- 陸上部の生徒による地区の小学校での技術指導～始業前に各小学校に陸上部の生徒が出向き、相模原市内の小学校の連合運動会に向けて、小学生に陸上の技術指導を行った。
- 研究授業への参加～若手の教員を中心に地区の小学校や中学校の研究授業・研究協議に参加した。この関連で、新採用教員の研修の一環である他校種研修も引き受けていただいた。
- 情報交換～中学校と各小学校の校長と生徒指導担当が行う情報交換会に参加し、地域の小中学生の状況等を共有するとともに、高校の状況についても情報提供した。

(3) 地域との連携

- 学校の所在地区自治会の役員さんの防災避難訓練への参加～学校の防災避難訓練に、学校の所在地区自治会の役員さんが参加し、生徒の起震車体験、煙体験、消火器体験などを参観した。また、学校で預かっている市の防災倉庫で備品を確認した。
- 地区の連合自治会の運動会～野球部が補助役員として参加した。
- 地区の公民館主催の文化祭～茶道部がお点前を披露した。
- 地区の公民館主催の小学生対象の卓球教室～卓球部の生徒が講師として参加した。
- 地区の青少年健全育成協議会主催の地域清掃ボランティア活動～柔道部の生徒が参加し

た。

- 介助員さんの情報提供～障害のある生徒の入学に伴い介助員さんをやっていただけの方をさがす必要が出てきた。学校運営協議会の委員を務めていただいていた障がい者支援施設の施設長さんに相談し、地域のボランティア団体から介助をしていただける方を紹介していただいた。

(4) 学校行事での連携

- 体育祭～学校運営協議会委員の方々に参観していただいた。PTAにも熱中症予防の給水やテントの増設などで全面的に協力をいただいた。
- 文化祭～地域の多数の皆さま、学校運営協議会の委員の皆さま、近隣の小中学校の管理職に参観していただいた。隣接の障がい者支援施設には、福祉委員会の生徒と一緒にクッキー販売を毎年行ってもらっている。PTAからも模擬店の出店なども含めて多くの方に参加していただいた。
- 交通安全デーでの交通安全の啓発～地区校長会議の呼びかけで年2回交通安全デーを設定し、各校で生徒向けの交通安全の呼びかけを行っている。その際、市役所、警察署、交通安全協会、交通安全母の会およびPTA交通安全委員の方々が、正門や近くの交差点で登校してくる生徒に交通安全を呼びかけた。
- 授業改善に資する研究授業～学校運営協議会の委員及び近隣の小中学校から何人かの先生方に参加していただいた。
- 本校の展望ラウンジでの展覧会～各小学校と地区の公民館で活動している地域サークルから作品を出してもらい展示し、地域の方への公開も行った。
- 地域貢献活動～学校周辺と隣接の障がい者支援施設での清掃活動を1年生が行った。
- 本校のPTAが主催するキウイ収穫祭～中庭のキウイ棚に実るキウイの収穫を例年11月に行っている。田名中学校の吹奏楽部、地域の和太鼓クラブ、本校の吹奏楽部、ダンス部が演奏を披露し、収穫はPTAの方々と運動部の生徒が協力して行った。隣接の障がい者支援施設の方々や回覧板で案内を出した地域の方々など多数の皆さんに参加していただき、収穫したキウイはおみやげとして持ち帰ってもらった。「毎年楽しみにしているよ」と声をかけてくださる地域の方もいた。
- 障がい者支援施設でLEDを使ったクリスマスの飾りつけ～高大連携の一環として神奈川工科大学で夏休みにLEDの講座に参加した生徒が、LEDを使って大学生と協力して近隣の障がい者支援施設のクリスマスの飾りつけを行った。
- 学習成果発表会～学校運営協議会委員の方々に参観していただいた。
- 卒業式～学校運営協議会委員の方々および近隣の小中学校の管理職の方に来賓として参加していただいた。

まとめ

コミュニティ・スクールの導入前からの取組みに加えて、コミュニティ・スクールの指定を受けてからいくつかの取組みを加えることができた。それぞれの取組みが生徒の学びの機会となり、生徒にとっては参加することで成長の糧となった。実施した取組みについては、随時学校のホームページ等で報告をさせてもらったが、それを見て自分も参加した

かったという生徒の声があったりもしたので、生徒はもちろん保護者にもご理解いただけるような取組みができたもの確信している。

課題としては、どのように生徒に参加を促すかということがある。こんな取組みがあるから参加してみないかという取組みの前のアナウンスと参加するという一歩を引き出すことがこれからも課題となると思う。地域からは、高校生にボランティアとして参加してほしいという要望も何度かいただいたことがあったが、定期テスト中などで生徒が参加できる日程でなかったり、呼びかけても参加しようと手を挙げてくれる生徒が出てこなかったりしたこともあった。参加生徒の募集の呼びかけなどにはさらに工夫が必要である。また、コミュニティ・スクールについても地域との連携についても、所属の教員の理解と協力が不可欠である。さらに理解を深められるように情報発信と情報共有が必要である。

地域や近隣の小中学校との連携については、ここにきてコロナ禍ということでなかなか実施が厳しい状況かと思われる。生徒の学びの機会として、コロナ禍が終息してこれまでの取組みが再び実施できるようになることを願うばかりである。

<資料3>

- 文部科学省ホームページ コミュニティ・スクール (学校運営協議会制度)
www.mext.go.jp/a_menu/shotou/community/index.html
- かながわ教育ビジョン www.pref.kanagawa.jp/docs/u5t/cnt/f4816/index.html
- 神奈川県 県立高校改革基本計画
www.pref.kanagawa.jp/docs/u5t/cnt/f531868/index.html
- 神奈川らしいコミュニティ・スクール (県立高校)
www.pref.kanagawa.jp/docs/dc4/cnt/f535758/index.html
- 相模原市ホームページ 小中連携教育
www.city.sagamihara.kanagawa.jp/.../1015001.html